

# 第39回労働リーダーシップコース

～明年1月開設40周年の佳節！ 39年間の修了生は1301名に～

第39回労働リーダーシップコースは、2008年1月9～26日の日程で、京都・関西セミナーハウスで開校した。同コースには、加盟産別・単組から35名（内女性2名）が受講し、合宿形式で、労働組合リーダーとして必要な基礎的・専門的知識を4つの柱に基づく多彩なカリキュラムを通して学ぶと共に、4つのゼミナールに分かれて、ものづくり労働・職場での様々な課題について徹底したディスカッションを行った。

このほか、グローバルな資質を養うべく、早朝の7回にわたる英会話講座、国際労働運動の歴史と流れを学ぶ国際労働運動論、グローバルに労働組合に求められる社会貢献について考える国際協力論、ロシアの実像と課題について学んだ実践国際政治学の講義を聴いた。労働の分野では、戦後の労働運動の歴史を学ぶ戦後労働運動論、組合の戦略づくりのノウハウについて学ぶ組合戦略づくり、労使関係論、雇用論、労働法、M&Aと労使関係、そして賃金のあり方についての労働経済論などについて学んだ。組合・職場の課題を自由に話し合う討論会、京都の文化を体験する茶室体験と、人生の意味を考える早朝の座禅、哲学、深層心理。壮大な宇宙論から現在科学の先端技術まで、ものづくりの原点を学ぶ現代科学技術論、専門的知識として、統計のノウハウを学ぶ統計学、循環型社会と企業なども学んだ。復活2年目の比叡山登山に雪の中汗を流した。そして、経営者にじっくり話を聴く特別講演「経営と人間」など、多彩なプログラムを受講した。

## ▼開校式

開校式は元セミナーハウスの職員（現・田辺キリスト教会牧師）の喜多村やよいさんのハープ演奏で厳かに始まった。冒頭、平田哲校長、八田英二名誉校長（同志社大学長）からの式辞の後、主催者を代表して加藤裕治金属労協議長が挨拶した。この後厚生労働省の小野晃政策統括官はじめ中條運営委員長、香川副校長らから祝辞を受けた。平田校長は、「世界的に問題となっている環境問題について、ロンド



開会式・式辞を述べる平田校長

ン大学のニコラス・スターン博士は、その解決のためのキーワードは『バランス』であると喝破した。労働運動の面でもワークライフバランスの重要性が言われているが、あらゆる分野で『バランス』が必要である。そういう意味で、全人格的な教育をめざす労働リーダーシップコースの重要性はいや増している。『出会いと学び場』で新しい仲間との交わりを深め、知識の向上と共に、『他社への配慮』をもつて、格差社会における労働組合の責任と変革を新たにしよう」と呼びかけた。

## ▼実行委員会中心にコース運営

コースは、「貿易ゲーム」を通してグループ形成を行った後、夕食会では、恒例のすき焼きで、平田校長の音頭で乾杯し、ゼミ別に交流を深めた。晩の全体ミーティングでは、全員の自己紹介を行った後、各ゼミ毎に班



ファンタジー—日高先生による作品の後評



講義風景—名物講師早川先生の地域福祉論

長・副班長を決めたほか、座長、ラジオ体操担当、討論会実行委員などを互選で決めた。

平田ゼミの班長は中島昭次さん（三菱重工労組長崎支部）、副班長は近藤真紀子さん（パナホーム労組）。香川ゼミの班長は本田健太郎さん（JFEスチール福山労組）、副班長は



英会話第1回一朝の目覚めのEnglish!



討論会—ゼミを越えて自由に語り合った。



座禅—1日の早朝、瞑想のひととき。



特別講演—「経営と人間」について学んだ。



比叡山登山—1時間半の登山、やり抜いた達成感!

高橋若葉さん(トヨタ車体労組)。  
石田ゼミの班長は川井田貴志さん  
(パナソニックAVCネットワーク

ス労組)、副班長は川島誠さん(マ  
ツダ労組)。中田ゼミの班長は清水  
正志さん(全本田労連)、副班長は  
鈴木英昭さん(古河グループ労連)。

班長・副班長8名で実行委員会  
を構成し、毎日昼休みに級長を中  
心に実行委員会を開き、全体のコ  
ース運営の任に当たった。

実行委員会を束ねる級長には、  
石田ゼミ班長の川井田さんが互選  
により選ばれた。後の3人の班長  
は副級長として級長を補佐した。

健康管理も考え、毎朝、朝の体  
操で出発。終了後、セミナーハウ  
ス周辺をみんなで散歩した。初日  
は裏手の砂防ダムまで散歩に。比

叡の山からの猿の斥候3匹と遭遇  
した。

### ▼特別プログラム

特別プログラムとして、加藤J  
C議長による開校講演「これから  
の労働運動とリーダー像」、経営者  
による特別講演「経営と人間」(三  
菱重工業(株)の江川代表取締役副  
社長)を学んだ。また、米国の留  
学生5人を講師とする毎朝45分ず  
つ計7回にわたる英会話をエンジ  
ョイしていた。

コース折り返し地点の16日の午  
後には、スポーツ交流として、平  
田校長の始球式でボーリング大会  
を行った。晚には、趣向を凝らし  
たゼミ対抗のアトラクションの披  
露など交流会を行い、後半戦への  
鋭気を養った。

17日晚には、討論会を行った。  
これは、石田教授の指導のもと5  
人の討論会委員が考えた「労働時  
間管理」「男女共同参画」「職場の  
セクハラ、パワハラ」「非正規労働  
者」「成果主義」の5つのテーマの  
出店に、それぞれ分かれ、受講生  
は興味のあるテーマの出店に行き  
来し、自由に討論しあった。

朝の会を計3回持った。1回目  
は平田校長から生きる意味につい  
て講話を聞いた。2回目は阪神淡  
路大震災のあった1月17日朝の集  
いでは、中越地震での被災体験を  
三洋電機労組新潟支部の大橋さん  
から聞いた。3回目は若松事務局  
長代行から労働組合と人生、人間  
関係について体験談を聞いた。

12日(土)は、朝6時15分真つ  
暗の中、雨も何のその、全員元気  
に徒歩15分くらいかけ、圓光寺を  
訪問、座禅を体験した。

19日(土)早朝5時、真つ暗な  
中、登山隊長の森口ゼミナーハウ  
ス館長の指導で、準備体操の後、  
受講生一行は、昨日の雪の残るき  
らら坂登山道から、懐中電灯で照  
らしながら、最初の急な坂道を越  
え、約1時間半かけて、ゴールの  
山頂駐車場に到着。はるか眼前に  
は琵琶湖が広がり、雲間から日の  
出の陽光が幾筋も見え、幻想的な  
風景に疲れも吹き飛ばさうだった。

### ▼ゼミでの成果を発表

1月25日午前は、4回にわたつ  
て議論して、各人が自分の選んだ  
課題について解決策などをまとめ  
た個人レポートを各ゼミ毎に分か

れて発表しあった後、午前11時半から一同に集まり、各ゼミ毎にゼミで論議した内容を発表しあった。各ゼミの発表の後、質疑応答を行い、ゼミ指導講師から講評をいただいた。最後に、若松事務局長代行から、ゼミでの真摯な議論した成果を、これからの職場での活動に是非生かしてほしい旨コメントがあった。

◎受講生のレポートテーマは以下の通り。

【平田ゼミ】「人生観に根ざした労働組合活動を考える」(全国マツダ労連・内匠雅也)、「これからの労働組合の役割」(マツダ労組・竹谷隆志)、「職業と人生の意味を考える」(パナソニックAVCネットワークス労組・永岡光一)、「職業と人生の意味を考える」現代社会の

抱える課題と労組の進むべき方向性」(シャープ労組東日本支部・高橋和久)、「職業におけるやりがい」を如何に創出するか」(松下電工労組滋賀支部・倉員秀樹)、「職業と人生の意味を考える」より豊かな人生を送るために」(パナホーム労組・近藤真紀子)、「今後の生き方について」(コマツユニオン本社営業支部・高橋賢也)、「職業と人生の意味を考える」(三菱重工労組長崎造船支部・中島昭次)、「職業と人生の意味を考える」(住友電気工業労組伊丹支部・神足泰臣)、「職業と人生の意味を考える」(全労済労組中日本総支部・染谷修平)

【香川ゼミ】「自動車におけるグローバル展開への対応と課題について」(トヨタ車体労組・高橋若葉)、「CSR(企業の社会的責任)推進における労働組合の役割に関する提言」(全本田労連・金丸隆生)、「国連『グローバル・コンパクト』について」(本田技研労組鈴鹿支部・坂田英規)、「国際労働基準と労働組合の関わり方について」(パナソニックAVCネットワークス労組作州支部・芦田隆紀)、「NECの海外給与制度とその問題点」(日本電気労組本社支部・豊福英孝)、「現代における児童労働」(JFEスチール福山労組・本田健太郎)、「海外派遣制度について」(三菱重工労組相模原支部・三浦武志)、「労働における基本的原則および権利に関するILO宣言とそのフォローアップについて」(全労済労組中日本総支部・深田 武)

【石田ゼミ】「組合員の『モチベーション』について」(本田技研労組浜松支部・袴田 豪)、「ワークライフバランスのとれた働き方の実現に向けて」(本田技研労組研究所支部・大川卓哉)、「労働組合機能の再発見とフロンティアの展望」(マツダ労組・川島 誠)、「経営対策的な視点での労組活動について」(労働CSR)「ヤマハ発動機労組・道添聡浩)、「本リーダーシップコース」(石田ゼミ)参加に当たっての諸課題」(松下電器産業本社技術部門労組生産技術研究所支部・和田昌幸)、「企業の継続的な成長・発展を支え、労働組合の本質を取り戻す制度実現を目指す」(パナソニックAVCネットワークス労組オーディオ・



交流会—最後は恒例の香川先生先頭に阿波踊りで締め



組合戦略論—グループ討論を発表



統計学—パソコンを持参での実践



茶室体験—講議の合い間に京の文化に触れた。



ゼミまとめ発表



ゼミまとめを聞く受講生



第39回LSC閉校式—答辞を述べる川井田級長



閉校式記念撮影—先走した顔は全員晴れやかだった。



実行委員会—毎日昼休み受講生の健康管理から運営まで、縁の下の力持ち

ビデオ門真支部・川井田貴志)

「労働組合の人材育成機能」  
コミュニケーション能力開発に  
ついて(富士通ゼネラル労組川  
崎支部・飯塚裕之)、「労働組合  
の存在意義とコミュニケーション  
」(コマツユニオン北陸支部・  
紺谷充弘)、「労働組合の存在価  
値」(JFEスチール倉敷労組・  
松成康昭)

【中田ゼミ】「自社賃金体制の分  
析および今後の賃金体制につい  
て」(全本田労連・久富栄二)、「  
ホンダモーターサイクルジャパ  
ンの賃金体系について」(全本田  
労連・清水正志)、「三洋電機  
(株)の賃金制度について」(三洋  
電機労組営業総合支部・上田  
浩)、「三洋半導体製造(株)の賃

金制度における評価と課題」

(三洋電機労組新潟支部・大橋文  
昭)、「賃金制度のあるべき姿と  
その可能性」(松下電工労組松下  
電工IIS支部・島田和政)、「J  
FESスチールにおける人事・賃  
金制度の課題と方策」(JFES  
チール千葉労組・平野盛土)、「  
新たな賃金制度の目的と課題」  
(神戸製鋼所労組加古川支部・曾  
田幸和)、「賃金制度の課題と改  
善案について」(古河グループ労  
連・鈴木英昭)

### ▼閉校式—大きな成果上 げ閉校

1月26日(土)午前、閉校式を  
行い、平田校長の式辞の後、35名  
の受講生全員が平田校長から修了  
証を授与され、無事卒業した。受

講生は1月9日以来、多岐にわた  
る講義と多彩なプログラムを受講

した他、4つのゼミに分かれての  
職場の課題などについて徹底した  
討議を通して研修に励むと共に、  
合宿生活を通して友情の絆を育ん  
だ。今回の修了生35名を加えて、  
39年間の修了生の累計は1301  
名に達した。

閉校式では、主催者を代表して、  
若松事務局長代行が、このコース  
で培った友情の絆をさらに強化し  
ながら、当面する課題にフェステ  
イナ・レンテ(ゆつくりと、着実  
に)の精神で果敢に挑戦していっ  
てほしいと激励した。続いて、中  
條運営委員長をはじめ、ゼミを担  
当いただいた香川副校長、石田運  
営委員、中田運営委員から饒の挨

拶をいただいた。続いて、受講生  
を代表して、今コースの級長を務  
めたパナソニックAVCネットワ  
ークス労組の川井田さんが、万感  
こもる思い出と決意と友情の絆を  
さらに強めていく旨の答辞を述べ  
た。最後に、全員で「卒業の歌」  
を合撃して閉校式を終了した。

記念撮影後、受講生の発意で、  
大会議室南側に紅葉の若木が植樹  
された。打ち上げの後、受講生一  
人ひとり、またの再会を期して、  
なごりを惜しみつつ、家路につい  
た。

### ▼次回第40回コースの日程

次回第40回労働リーダーシップ  
コースは、2009年1月7日  
(水)〜24日(土)の日程で京都・  
関西セミナーハウスで開催される。  
なお、労働リーダーシップコース  
(旧・西日本コース)が明年09年1  
月に開設40周年を迎えることを記  
念して、09年5月15日(金)14時  
半から同志社大学で記念式典・記  
念講演を行い、その後、京都ガー  
デンパレスホテルでレセプション  
を予定している。

## ゼミナール担当講師のコメント

●労働リーダーシップコース副校長/  
大阪女学院大学教授

香川孝三 かがわ・こうぞう



### 「労働組合と世界」

ゼミのテーマは、例年通り、「労働組合の国際的役割」でありました。8名のゼミ生ががんばって、ゼミ発表やシンポジウムを取りまとめてくれました。具体的には、海外派遣要員の労働条件に組合はどのような配慮をすべきかという問題と、企業の海外進出にともなって、労働CSRをいかに順守していくべきかという問題の2点に絞りました。必ずしも普通の業務で国際的な活動に関わっていないにも関わらず、短期間のうちに、資料を集めて報告をしてくれました。特に後者の問題は組合で議論されることのないテーマであったために、苦勞されたのではないかと思います。

しかし、この問題はこれから注目すべき問題となるように思います。CSR調達、CSR投資は企業にとって無視できない課題になるので、組合としてもそれらの問題を視野にいたした活動が必要になることでしょう。CSRというと環境問題やコンプライアンスが日本では注目されてきましたが、労働にかかわるCSRも無視できません。組合は労働にかかわる仕事をしているので、労働CSRに強い関心を持って、対処してほしいものです。IMF-JCの活動方針にも労働CSRの普及が掲げられていますが、多くの関心を集めていない状況は大変に残念であると思っています。



ゼミ発表後、コメントする香川副校長



香川ゼミ風景

## 校長・ゼミナール担当講師のコメント

●労働リーダーシップコース校長/  
アジアボランティアセンター代表

平田 哲 ひらた・さとし



### 「労働組合と人間」

～職業と人生の意味を考える～

本年2008年1月に、IMF-JCの労働リーダーシップコースも第39回を迎えた。

受講生のアンケート集計によれば、次の二つの点に要約して、その特色が示されていた。

第1の点は、講義の内容について、もっとも印象に残ったものは、組合戦略づくり、労使関係論、深層心理、国際労働運動論、経済論、哲学、科学技術の課題などである。その中で特に、心理・哲学・科学技術、地域福祉などに関心が寄せられている。

第2の点は、寝食を共にした約15日間の交流は、産別の枠を超えて、人と人とのつながりが強くできたことである。ある受講生は、「出会いはお金では買えない財産」であると高く評価している。

第3の点は、受講生自身が、何となく専従者として組合活動に従事していたが、改めて労働組合の存在意義や今後に向かっていく新しい方向性などを再認識することができたことである。

私のゼミでは、テーマを「職業と人生の意味を考える」とした。私たちの人生にとって職業の問題は根本的な問題である。人生の大部分は職業を中心として展開されているからだ。今回は非正規労働者など格差社会が拡大する一方の今の社会において、もう一度、「職業と人生の意味を考える」という原点に立ち返って、労働組合の責任と変革について、いろいろな本をもとに、考察した。激変の時代こそ人生、人間という「原点」に立ち帰ることの大切さを各人が痛感した時間でもあった。労働組合にとっても、個人にとっても、新たなる出発をするために、今一度原点に立ち帰ることが必要と感じた。

いよいよ明2009年1月に、労働リーダーシップコースは、開設40周年の節目を迎える。「労働運動は人なり」と言われるが、その運動の担い手の素質強化のため、労働リーダーシップコースがますます充実強化され、JCのみならず、日本を、世界をいい方向に導いていく人材が輩出されることを心から願ってやまない。

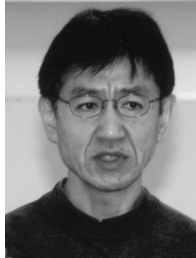


ゼミ発表の後、コメントする平田校長

ゼミナール担当講師のコメント

●労働リーダーシップコース運営委員/  
同志社大学社会学部教授

中田喜文 なかた・よしふみ



「労働組合と社会」

仕事と処遇～納得性のある  
給与の決め方と水準

私たちのゼミは、「仕事と処遇～  
納得性のある給与の決め方と水準」

をテーマに、ゼミ討議を5回と、他のゼミとの合同で行った半日のゼミまとめを含めると、延べ15時間を超えるゼミ活動であった。しかし実態は、この公式のゼミ活動以外にほぼ同程度のゼミ報告のための準備活動を参加者は行っているの、30時間もの時間、7名のゼミ生が学びの時間を共有したことになる。改めて、リーダーシップコースにおけるゼミ活動の重要性を認識する数字である。

さて、今年のゼミ活動の目的を以下の3点に設定した。  
(1) 給与の多様な意味を理解することを通して、組合活動に対する多様なステークホルダーの存在を理解する。(組合活動の社会性の理解)

(2) 日本の給与の決め方と水準の実態を知ること、その背景にある(普遍性のある)ロジックを理解する。

(3) そのような実態とロジックの納得性を評価することを通して、今後の組合の賃金政策のあるべき姿について考えをまとめる。

これらの3つの目的に向け、5回のゼミでは、A) 各自が所属する組織の賃金制度と水準について調査報告、B) 他の参加組織の賃金制度と水準を調査し、自組織との差異とその理由を調査する。C) 個別ゼミメンバーの報告を全員で総括し、日本の大企業組織における賃金の決め方とそのロジック、およびそれぞれのステークホルダーにとってのそのメリット、デメリット、そしてその納得性を検討し、まとめる。D) 最後にそのまとめに基づき、自組織の賃金制度と水準、および背景にあるロジックを評価し、自組織にとって望ましい賃金制度と水準、およびそのロジックを提言案にまとめる、以上の活動を行った。

各自、毎日様々な授業に出席し、さらには早朝と夜にも様々なプログラムをこなしながら、ゼミ活動にも関わらず、ゼミの結束を高めていきながら、初期の目的を全員が見事に達成してゼミ活動が終了された。

ゼミ生の熱意と努力に感銘を受けた2008年のゼミ活動であった。



中田ゼミ風景

ゼミナール担当講師のコメント

●労働リーダーシップコース運営委員/  
同志社大学社会学部長・教授

石田光男 いしだ・みつお



「労働組合と職場」

わたしのゼミは「労働組合と職場」というテーマで、9名のメンバーで議論を重ねた。労働組合の日常活動

の悩みが具体的に全員から出される。これは実体験に基づく苦労話であるからいくらかでも話題はある。

メンバーが一番苦労したのは、そういう具体的な話題をどのように整理するかだ。そのためには、一人一人の話題を正しく理解することが必要である。組合組織、職場組織、組織内のルールが理解されなくてはならない。集中しないと9人のそれぞれの問題のコンテキスト(文脈)が理解できない。理解できるようになることが重要な勉強である。

そのうちにこれではまとまらないという焦りがでてくるが、わたしはじっと我慢する。みんなでボードをつかたりして現象(話題)とその根っこにある概念や本質を論ずる方向に議論が深まるように誘導する。

このプロセスを通じて現象から本質を見通す忌憚のない議論のすばらしさを体得していく。そのようにして、みんなで次のようなまとめを行った。

(1) 90年代後半以降の経営改革と人事改革を通じて集団と個人のバランスが個人に偏重する傾きを深めた。そこから職場問題が発生している。

(2) 処遇についても、労働時間についても、フラット化しすぎた組織を是正し、経営管理の機能を回復すること、それを前提に経営目標に労働CSRを織り込み経営管理と労使協議の両輪でその目標を達成するような労使関係の再構築が必要である。

(3) 経営の短期的視野への跼蹐(きょくせき)への是正機能に労働組合の役割がある。



石田ゼミ風景

### 受講生代表コメント

●香川ゼミ・班長/  
JFEスチール福山労働組合／執行委員

**本田健太郎** ほんだ・けんたろう

**組合活動の原点である  
「人の集まり」**



リーダーシップコースが終了して、早半年が経とうとしています。私も組合役員として、今日まで様々な研修に参加してきましたが、2週間半という長期間の研修日程には驚かされ、不安を抱きながら研修に望みました。

内容については、労働運動関係の講義が中心となりますが、心理学や統計学、哲学、英会話などあらゆる分野の講義があり、受講生全員で考えさせられ、学ぶことが出来ました。勿論その議論は深夜まで続き、研修当初の不安が嘘のように日々、受講生の絆が深まっていくのを実感しました。

組合活動の原点である「人の集まり」と言う意味でも、この研修で出会った仲間というのは財産であり、その機会を与えてくれたIMF-JCの事務局の方、関係者の方々含め感謝とお礼を申し上げます。

最後になりますが、これから受講される方には、普段の業務を忘れさせてくれるぐらいのこの2週間半というのは、以降の組合活動、又は人生にとっても貴重な経験になることを約束いたします。

### 受講生代表コメント

●香川ゼミ・副班長/  
トヨタ車体労組／執行委員

**高橋若葉** たかはし・わかば

**たくさんの人と色々な話を  
した16日間**



16日間、単組の仕事から離れ、労働運動の歴史や取り巻く環境、さらには哲学、宇宙のことなどの講義を受けました。ゼミでは「21世紀国際社会における労働組合の役割」というテーマで、各社の海外駐在員の問題についての情報交換や、組合から見たCSRなどについて意見を交わし、香川先生からは、策定中のISO26000や世界における児童労働問題などについて教えていただきました。毎朝7:00からラジオ体操があるのに、寝る時間ももたないで初日から毎晩、自分のゼミやゼミ以外の人とも労働組合の活動やプライベートなことまで、色々な話をし、たくさん笑いました。知識も心も豊かになれたような気がします。講義をいただいた先生方、IMF-JCの渡辺さん、上口さん、関西セミナーハウスみなさん。ありがとうございました。

### 受講生代表コメント

●平田ゼミ・班長／三菱重工労組長崎  
造船支部／組織部長

**中島昭次** なかしま・あきつぐ

**みんなとの論議の中から多く  
を学んだ時間**



2008年1月9日から26日の日程で開催された「IMF-JC第39回労働リーダーシップコース」に参加しました。研修会場は、京都の「関西セミナーハウス」という比叡山の中腹にある風光明媚な、時折顔とおしりが真っ赤な小動物が出没するという研修にはもってこい(?)の施設でした。

研修初日、わたくしは受講生で最後に研修会場に入場したため、指定席(最前列・ど真ん中)に座ることになり、過酷な研修になることを予想するにさほど時間は必要ありませんでした。

専攻したゼミは、「職業と人生」をテーマに職場や社会情勢など自らの周辺環境をあらためて見つめ直すとともに、今後の労働運動展開に対する新たなヒントを見出すことが目的でありました。班員全員で夜を徹した真剣な議論(?)を重ねることほぼ毎日。班のみなさんとの論議のなかから多くのことを学んだ時間でありました。

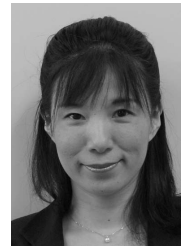
「労働リーダーシップコース」を通じて知り合えた仲間との絆を大切に、今後も組合役員として頑張っていきます。

### 受講生代表コメント

●平田ゼミ・副班長/  
パナホーム労働組合／中央執行委員

**近藤真紀子** こんどう・まきこ

**これからも組合役員の『抛り  
どころ』であり続けてほしい**



雪の舞う卒業式から半年。充実した日々が今なお鮮明によみがえります。

労働組合の意義や役割が改めて問われる昨今にあって、私にとってもリーダーシップコースへの参加は、これまでとは異なった視点から組合活動のあり方を考え、また自己を見つめ直す絶好の機会となりました。もちろん、それが多彩な教授陣、質の高い講義、私を支えてくれた他の受講生の皆さんによることは言うまでもありません。ゼミを中心とした深い論議、また労使関係はもとより、現代科学技術や心理学に至るまでの幅広いカリキュラム、そして文字通り「一つ屋根の下」で育んだ絆…それらで得たもの全てが、私自身の「宝物」となっています。

次代に望むことをあえて申し上げるならば、女性の参加率向上や、JC傘下のより多くの労組が受講できる環境整備など、「多様性」をさらに意識した仕組みづくりでしょうか。

最後になりましたが、私たち39期生に関わっていただいた全ての方々から感謝を申し上げます。今後も本コースが組合役員の「抛りどころ」であり続けることを、卒業生の一人として願ってやみません。

受講生代表コメント

●中田ゼミ・班長／  
全本田労働組合連合会／中央執行委員

**清水正志** しみず・まさし

**機会があれば  
もう一度参加したい**



第39回労働リーダーシップコースの感想を限られた文字数で表現するのは大変困難ですが、一言で言えば「機会があればもう一度参加したい」と言えます。充実した講師陣による幅広い分野の講義で自らの見識を深め、ゼミではテーマに沿って自企業の実態や課題について深く議論し、課題の本質と目指すべき方向性のヒントをつかむことができたことは、私にとって大きな収穫となりました。その他の活動もバリエーション豊かで、セミナー期間中に退屈することは全くありませんでした。なんとと言っても朝の体操に始まり、講義、ゼミ、食事、宴会と、18日間生活を共にすることで、業種や産別の枠を超えた人間関係を築くことができたことは、このセミナーを通じて一番の成果となりました。最後に、事務局とセミナーハウスの皆様、講師の先生方、ゼミの中田先生、そしてセミナーで知り合えた全ての仲間達に感謝の意を表し、セミナーの感想とさせていただきます。

受講生代表コメント

●中田ゼミ・副班長／古河グループ労連  
／中央執行委員

**鈴木英昭** すずき・ひであき

**増えた私自身の「引き出し」**



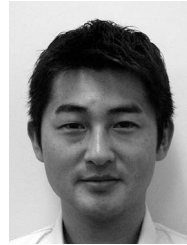
私の所属する産別は全電線という組織で、その名のとおりの様々な電線と関連製品を製造販売している会社の労働組合で組織しています。JCの中では、他の産別とは比較にならないほど小さな組織で不安もありましたが、過去に参加した先輩の話し等聞き、参加することにしました。参加して感じたことは、JCの中にも大中小の単組があり、その組織を取り巻く環境は様々ですが、同じ屋根の下で、同じ釜の飯を食べ、一緒に課題に取り組むことで、様々な経験談を聞くことが出来ましたし、何より仲間が出来たことは、たいへんな財産だと思っています。また、ゼミでは、日本企業に望ましい賃金制度と水準、及びそのロジックについて意見交換を行い、自組織の賃金制度のあるべき姿をイメージすることが出来、大変有意義でした。この研修での経験は、これからの労働組合活動、会社生活、生涯人生の中で、私自身の「引き出し」が増えたような、役に立つことが多かったように感じています。JCスタッフを初めとする関係者の方々に感謝しています。皆さんも機会がありましたら、是非参加してみてください。

受講生代表コメント

●石田ゼミ・班長（級長）／パナソニック  
AVCネットワークス労働組合／オー  
ディオ・ビデオ門真支部／副書記長

**川井田 貴志** かわいだ・たかし

**「All for one, One for all」  
— 自立と連帯 —**



今回、組織の勤めと、「自ら考え、自ら決め、行動する」活動の主体者へ成長する思いを持ち、本コースに参加させていただきました。専門分野をはじめ、日本、世界さらには宇宙という視点に至るまでの講義や運動論は、充実した研修カリキュラムで、各ゼミでは講師のご指導の下、テーマに対する徹底した議論やレポート作成がメンバーと共に連日深夜まで出来たことも、何物にも変え難く、実りの多い貴重な経験となりました。「All for one, One for all」という平田校長の言葉から、絆や連帯の認識が深まり、個人が自立すること、自立した個人がつながること、さらに多くの仲間と交流を図り、人間としての裾野を広げ、深みを増すことが、高みのある労働運動や社会全体の幸せにつながっていくという教えが強く印象に残ります。私自身、オリエンテーション早々何か大きな力（翼）に引き寄せられ級長という立場から、全体のコース運営に関する機会を得たことで、実行委員の方々と深いヒューマンネットワークやリーダーシップの実践等、大きな人生の財産を得、今後も大事にしていきたいと考えています。

私たち第39期、35名の役割は大きく、属する組織の中だけでなく、社会正義の視点や民主主義社会の安定体という立場から、今後の労働運動の担い手としての役割を果たしていきたいと考えます。ご指導いただいた講師陣、留学生、関西セミナーハウス職員の方々、1MF-JC事務局をはじめ、多忙な時期に送り出し支えていただいた出身組織、そして研修で出会えた39期受講生の仲間により感謝いたします。

受講生代表コメント

●石田ゼミ・副班長／  
マツダ労働組合／第4組織部長

**川島 誠** かわしま・まこと

**ずっと大きな心の支えに**



今回、「組合の存在意義」や「執行部としてのあるべき姿」などについて、確かめたくて石田ゼミを志望したわけですが、同じような悩みを抱えながら組合活動に取り組んでいるメンバーと3週間に渡って様々な議論ができたことは、今後の大きな財産となると思います。どんな研修よりも中身の濃い、充実した日々でした。初日の貿易ゲームこそ負けましたが、その後のボウリング大会や交流会での余興を制覇することができたのも、初日から毎晩遅くまでお酒を飲みながらの意見交換などで他のゼミにはない強い結束力やチームワークが生まれていたのだと思います。最後は本当に別れるのが辛くなるほどでした。研修が終わり現実に戻されてから早いもので半年が過ぎようとしています。6月末には第1回の同窓会も開催しました。このゼミの仲間と過ごした3週間は絶対に忘れることはないし、ずっと大きな心の支えとなるに違いありません。立派に級長の大役を果たした川井田さんを始めとして素晴らしいメンバーにめぐり合えたことに感謝しています。自立と協調の心で、ぼちぼち頑張りましょう！